

2学年潮陵フランチIIの取組

「潮陵生としての品格・学力を伸ばすプログラム」

～CプログラムⅡ～

1. CプログラムⅡ継続の必要性

- ・学力下位層への対応
- ・学力格差拡大への対応
- ・「たくましさ」や「向上心」育成の必要性

2. CプログラムⅡの方向性

- ・潮陵ミニマム・エッセンシャルズの定着
- ・習熟度学習の強化による上位層の育成
- ・潮陵の生活・学習環境(=潮陵文化)への適応

定員割れ時代の到来

緊張感の薄い高校入試

3. CプログラムⅡの具体

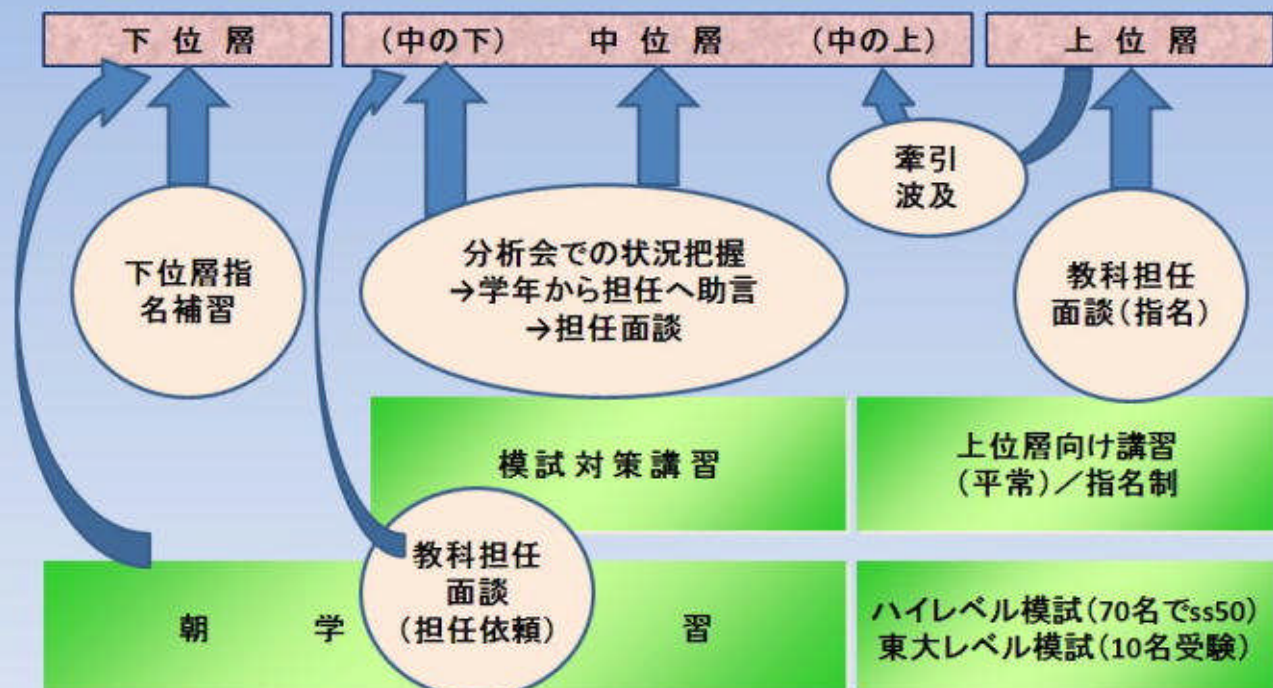
①潮陵の学校文化への順応を支援

- ・「潮陵の歴史を学ぶⅡ」(教材『百十周年記念誌』、一斉指導、秋)
- ・「潮陵の進路実績を知ろう」(『進路関係資料』一斉指導、5月)
- ・教育実習生による大学での学びについての講話(5月)
- ・社会で活躍する潮陵OBの職業講話(9月)
- ・進路室活用指導(赤本活用・募集要項閲覧、2月～3月)
- ・学年レクリエーション実施(11月)
- ・潮陵生としての品格指導(通年)
- ・きずな育成、いじめ防止教育などのこころの教育(クラス討議)
- ・「3年次のカリキュラムを知ろう」(「課程表」、教務部)
- ・行事面でのリーダー育成(品格あるリーダー←見学旅行を活用)
- ・生活支援面談の実施(学年団、随時)

②潮陵での「学び」への適応を支援

- ・定期的・計画的な学習時間調査(考査間の低下時期にしかける)
- ・下位層指名補習(定期考査対策講座、考査前2週間、部活制限)
- ・教科担任による面談(中位層・上位層への学習支援、5月～)
- ・中位層向け模試対策講習(成功体験→自信・モチベーション向上)
- ・上位層向けハイレベル講習(英数国各20名←教科担推薦)
- ・学力面におけるリーダーの育成(担任・主任面談、ベネ交流会)
- ・3年間を見通した朝学習プランと実践(2年次は英語を強化)
- ・7月模試にむけてのベネッセ講演(6月中)
- ・模試戦略シートの活用(2年次まで継続)
- ・学部・学科研究会(11月末)への参加奨励
- ・各種説明会(大学説明会、職業説明会)への参加奨励
- ・生徒向け模試分析会の実施

学力層別学力養成プラン



◎数値目標の設定 → 2年進研模試11月でss56が150名以上、ss52が180名以上

CASE 0

北海道小樽潮陵高等学校 潮陵プログラム(導入期プログラム)の作成と 年間計画が生んだ指導スタンダードの確立

高校情報	北海道小樽潮陵高等学校
	基本情報: 北海道小樽潮陵高等学校、公立、共学、普通科 規模: 1学年 280 名7クラス、2学年 280 名7クラス、3学年 280 名7クラス 主な進路状況(現役): 2013 年度入試国公立大合格者 95 名、北海道大合格者 18 名
課題認識	①定員割れによる、幅広い学力の生徒が入学してくるようになった ②国公立大学の合格者数が学校の目標とする 100 名を大きく下回るようになった 上記のことから、従来の指導から脱却する必要性を感じ始めた
課題解決の方向性	①全国の学校の指導事例を研究し、学校に取り入れられるものを探す ②導入期プログラムの立案(基礎基本の徹底と上位層への対応) ③立案したプログラム、行うべき指導内容を具体的スケジュールに落とし込む
取り組みの成果	現在の入学生の学力・気質に合わせた指導体制の確立がなされた。 進研模試において、2012 年度高校 1 年生の国数英総合平均偏差値は 54.3 (7 月) ⇒ 56.4 (1 月) へと大きく上昇。

I. 高校の紹介

2012 年度に創立 110 周年を迎えた、後志地区の伝統校。全日制課程普通科(7クラス)と定時制課程普通科(1クラス)を併置しており、自由と進取の精神の尊重、達成感とつながりを重視する精神と校風の下で、向学心豊かな生徒、自己実現できる生徒、良識ある生徒、心身の健やかな生徒、国際的視野を備えた生徒の育成を目指す。北海道教育委員会の医進類型指定校でもある。

II. 課題認識

後志地区の伝統校である同校であるが、昨今の人口減少に伴い、2009 年度の入学生で初めて定員割れを起こした。結果として、従来よりも幅広い学力の生徒が入学してくるようになり、定員割れ初年度の国公立合格者数は 79 名と、学校の目標である合格者 100 名に大きく届かなかった。そういった状況から現場からは、従来の指導では通用しない、変わらなければならない、といった声が多く聞こえるようになってきた。

III. 課題への打ち手

①まず、最初に手をつけたのが、同じ環境において課題を克服した他校の指導事例の研究だった。道内・道外に関わらず、詳しい話を聞くために実際に学校訪問も精力的におこなった。そして、集めた情報をまとめ(資料①)、潮陵高校に活かせるものはないかと検討した。

②他校の指導事例を調べた後、導入期指導のプログラム『潮陵プログラム』の作成に動き出した。

同プログラムでは、「潮陵生としての品格を身につけること」と「潮陵生の学びに必要な学力を身につけること」(潮陵ミニマム・エッセンシャルズと命名)の2つを指

導の柱として打ち出した。資料②にまとめられているように、入学してきた生徒が学校文化へ順応できるよう小樽潮陵高校の歴史やカリキュラムを説明したり、学びへの適応を支援するために学習方法取得講座、上位層向け添削指導、下位層指名補習を行ったりと、様々な取り組みを整理した。

③潮陵プログラムが完成し、やるべきことを明確にした上で、それを具体的な年間スケジュールに落とし込んだ。「今までは、カレンダーに追われて指導を行うことも多かった。年間計画(資料③)を作ったことで教員の目線も合い、時期に応じた指導が行えるようになった」と学年主任の増田先生は語る。3月の校内人事発表後、4月に新年度がスタートするまでの間で一気に作り上げた。年間プログラムを作成することで、それぞれの取り組みが再定義された。具体的には小樽潮陵高校が生徒の生活習慣を確認するために定期的に行っている「生活調査」は、一番気が緩む時期である考査と考査の間で行うことにした。また、講習については、上位者指名講習は行事のない比較的じっくりやれる時期に、下位者指名講習は定期考査の2週間前に行うことで定期考査へのモチベーションを高める、など目的に沿った適切な時期まで含めて考えた。一例として、朝学習については従来からやっていたが、内容面を見ると高3でやっている内容が本当に高3でやるべき内容になっていない、という点も課題意識としてあった。そこで高1・高2で身につけさせたい力を徹底して整理し、そこから計画・教材・回数などを決めていった。結果として、高3でやるべきことを精選することにもつながり、成果を実感することができた。

IV. 成果検証

潮陵プログラムの実施学年でもある 2012 年度高校 1 年生の進研模試国数英総合平均偏差値は 54.3（7 月）⇒ 56.4（1 月）と大きく上昇（資料④）。また、模試をしっかりと活用する意味でも『模試戦略シート』（資料⑤）を使い、受験前には具体的な数値目標の設定とそのための学習内容を考えさせ、受験後には自分の狙い通りの結果が残せたかを振り返らせ、次回に向けた戦略を立てさせることを徹底した。

V. 指導総括(解決できたこと、積み残されたこと)

解決できたこと

『潮陵生』として身につけさせたい力やそのための指導の流れが体系化された。年間行事まで落とし込むことで、それぞれの取り組みの適正な時期に実施され、意義が明確になった。

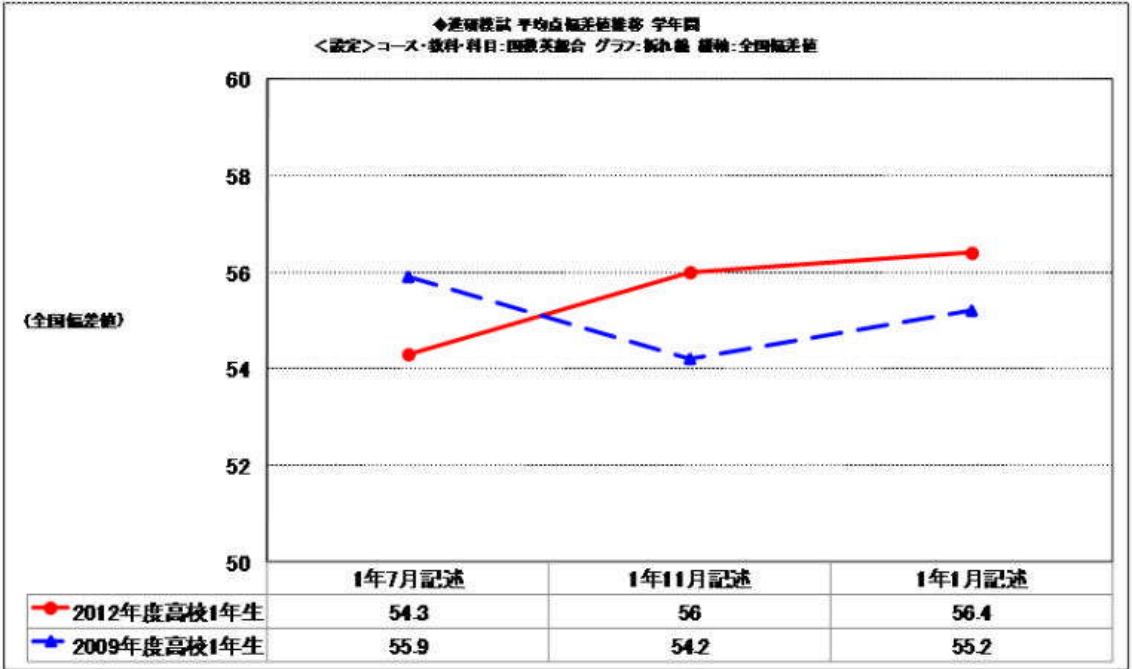
積み残されたこと、今後への課題認識

「今年せっかくやれたことを、学校全体の取り組みにしていくことが大切だと思います。次の学年にもしっかりと引き継いでいきたい。本当は偏差値 3 ポイント以上伸ばしたかったので、まだまだ 100 %満足はしていません。学年としては偏差値 52 ～ 54 ぐらいの中間層をどれだけ引き上げられるかが課題だと思っています。」と学年主任の増田先生。更なる躍進に向け、既に次を見据えている。

【資料①】 潮陵プログラム作成時の他校参考資料

高校名	情報	国公立合格者	課題	実践
県立高校	県市人口80,000人 地域1番手校 生徒数280人 年創立	118 41%	・地域から「(伝統におもねっているだけで) は何の指導もしていない」という声 ・「次年度以降も今までと同じような指導をしていたのでは、これまでの実績を超えることはできない」という思い(学年主任) ・長超勤解消による職員の流動化で、指導のスタンダード化を痛感	○導入期指導 ・周年に向けて、同校の歴史を学ばせて、高生としての誇りや帰属意識を高めた ・学習方法取得講座 ・課題未提出者への個別面談 ○55分授業の導入 ○大入試問題分析集の発刊 ○土曜講座 ○版医進指定校2010年～
県立高校	県市人口96,000人 地域1番手校 県内有数伝統校 生徒数275名 年創立	180 65%	・高校入試倍率ほぼ1倍 ・緊張感を持った高校入試を未経験 ・甘さから脱却できないまま入学 ・成績中の拡大と上位層の縮小(ｽｽﾌﾟでS層が10人名程度、A層が96人、B層が160人、C層が12人程度 ・成績下位層の引き上げと上位層の厚みが課題	○初期指導の徹底(1年次で学習習慣を定着) ・服装・頭髪・遅刻指導の徹底→生活習慣確立 ・週末課題の100%提出指導 ・下位層に対する教科担任面談 ・定期考査対策講座(強制・3週間)→下位層対策 ○現代文・数学・英語での習熟度別授業
県立高校	県市人口230,000人 地域3番手校 生徒数200名 年創立	85 43%	・校への入学がゴールという生徒が多い ・偏差値40台が20名前後 ・ｽｽﾌﾟでS層が4人程度(潮陵は15人前後)、A層が60人、B層114人、C層が18人程度、D層が2人程度 ・2年生での学力層の拡大が課題 ・偏差値40台後半の生徒をいかに50台に引き上げるか ・国公立大合格率50%が目標	○成績中位層の指導強化 ・ミニ中間(考査考査)←学習時間低下時期にしかける ・中下位層向け教科担任面談 ・基礎力養成講座→成績下位層向け強制補習 ・上位層向け個別添削 「学力層の幅が広いのは、地方公立校の宿命。あらゆる学力層に対応した指導ができれば、本校の存立意義はない」(進路部長)

【資料④】 進研模試
高校 1 年生平均偏差値推移



【資料③】年間プログラム（4月～6月抜粋）

月	日	曜	区分	行事	担当	学習内容	教材等	目的	備考
4	9	月	LHR	入学式	担任	潮陵生活に関わる諸連絡	日課表、時間割、奨学金資料	高校生活紹介	
	10	火	授業	スタディ・サポート①	進路	英数国学力リサーチ	スタディ・サポート(学力リサーチ)	生徒学力把握	
			LHR		進路・担任	宿泊研修の説明	『宿泊研修のしおり』	高校生活適応	
			LHR	宿泊研修結団式	学年・担任	宿泊研修の意義の説明	『宿泊研修のしおり』	高校生活適応	
11		水	行事	宿泊研修①	各分掌	潮陵生活オリエンテーションⅠ	パワーポイント	潮陵文化の理解	
			LHR		担任・研修係	エンカウンター、自己紹介	「心と心のすころく」、その他シート	高校生活適応	
			授業		教科担任(英数)	学習方法取得講座	教科書、英和辞典、プリント	潮陵での学びへの適応	
12		木	LHR	宿泊研修②	進路・担任	学習状況調査	スタディ・サポート(学習リサーチ)	生活状況の把握	
			行事		特教	潮陵生活オリエンテーションⅡ	学校紹介ビデオ	潮陵文化の理解	
			行事		学年	OB座談会	パワーポイント	潮陵の歴史について学ぶ	
			LHR		担任・音楽科	校歌練習／クラス役員選出	校歌歌詞／クラス役員表	潮陵文化の理解／学級作り	
			授業		教科担任(英数)	学習方法取得講座	教科書、英和辞典、プリント	潮陵での学習への適応	
13		金	行事	宿泊研修③	研修係	北海道大学見学	事前研修資料(『宿研しおり』)	大学について興味を育てる	
17～			授業		教務	各教科授業の導入	『シラバス』	潮陵での学への適応	
17～			昼休・放課後		担任	個人面談①	面談シート、スタサボ結果	学校生活適応の支援	5/16までに1巡
18		水	LHR	対面式	特教	学年間交流		高校生活適応	
23		月	総合		教務・進路・生徒	生活時間調査①、進路学習、通学調査	日課表／『進路ノート』p1～4	生活習慣の適正化	4/28～29の週間で調査
25		水	LHR		教務・特教	図書館オリエンテーション 記念館オリエンテーション	図書館説明資料 『百周年記念誌』	潮陵の過去と今を知る	記念館見学と連携
5	1	火	放課後	beneレクチャ	進路	スタディ・サポート結果のレクチャ	スタディ・サポートの統計結果	新入生の学力の理解	
	2	水	LHR		特教 進路	生徒総会原案審議 スタディ・サポートの結果を伝える	生徒総会原案 スタサボ結果	潮陵の行事に意欲的に参加する	30分 30分
	7	月	総合		進路	教育実習生の講話		大学での学びについて考える	
	9	水	LHR	生徒総会	特教	生徒総会		学校自治の意識を育てる	
14		月	総合	数学プレ考査	数学科				
16～			放課後		英語科	中学英語の学び直し	『補習授業or課題など』	潮陵での学びへの適応	
16		水	LHR		特教	潮陵祭原案審議	潮陵祭原案	潮陵の行事に意欲的に参加する	
18		金	放課後	保護者説明会	学年	学年・各分掌の取り組み、学級懇談	説明会資料	取り組みや現状の紹介	
21		月	総合		進路	『進路関係資料』の学習 進路オリエンテーション	『進路関係資料』と別紙指導マニュアル 『進路だより』	潮陵の進路指導についての理解	
21～27					教務・進路	生活時間調査②	日課表	生活習慣の適正化	5/28～29の週間で調査
23		水	LHR		特教	潮陵祭細案審議	潮陵祭細案	潮陵の行事に意欲的に参加する	
28		月	総合		進路	「高校生と進路について」	『進路ノート』p5～8	進路について考える	
28～31			放課後		英数国	下位層指名補習①		下位層への定期考査対策	
30		水	LHR		特教	潮陵祭クラス企画について		潮陵の行事に意欲的に参加する	6/8進路説明はだてで？
6	4～5		放課後	保護者懇談会	庶務・担任		スタサボ結果など	入学後の生活の情報交換	
	7	木	LHR	1学期考査最終日	特教	潮陵祭クラス企画について		潮陵の行事に意欲的に参加する	考査最終日の特設し
11～			昼休・放課後	1学期考査後から開始	英数国教科担任	教科担任面談①		中位層への学習支援	
11		月	総合		担任	球選手決め(終了)→クラス裁量		潮陵の行事に意欲的に参加する	原案では6/13水
13		水	LHR		進路	進研7月模試に向けてのbene講演	「模試戦略シート」①	7月模試に向けての意識づけ	教科担任チェック
18		月	総合		進路	「自分を見つめてみよう」	『進路ノート』p9～12	適正について考える	
18～24					教務・進路	生活時間調査③	日課表	生活習慣の適正化	6/18～24の週間で調査
20		水	LHR		特教	潮陵祭準備	クラス企画等の話し合い(作業は×)	潮陵の行事について意欲的に参加する	
27		水	LHR		特教	潮陵祭準備	クラス企画等の話し合い(作業は×)	潮陵の行事について意欲的に参加する	

	試験前に記入			試験後に記入	
	数値目標	具体的目標	具体的戦略	結果	戦略の妥当性・次回戦略
例(英語の場合)	全国偏差値 60	・文法問題、アクセント問題の正解率100%を目指す。 ・英文問題の正解率80%、時間配分に気をつける。 ・英訳問題の正解率70%を目指す。	・授業で扱った問題集の仮定法の部分(P17～20)を1週間前の日曜(1/13)にやり直す。 ・アクセントを間違いやすい単語の一覧を作成し、2週間前に全て覚え、前日に最終確認をする。 ・長文、英訳問題を担当の先生に添削して頂く。 ・文法・アクセント→英訳→長文の順で解き、長文に十分な時間を割く。	・全国偏差値…65 ・学年順位…30位 ・文法問題、アクセント問題の正答率93% ・長文問題の正答率85%(指示代名詞が指しているものを勘違いしていた)。 ・英訳問題の正答率88%	・今回から解く順序を変えたので長文を解く時間をしっかり確保することができた。 ・先生への添削依頼は効果大であった。週1度は必ず添削をお願いする。 ・会話表現の対策を全くしていなかったため、失点が大きかった。次回は頻出会話表現対策を試みる。
	得点 55点				
	学年順位 50位以内				

教科担任面談シート

2学年 教科担任面談シート													学年		所属 一輪				
000		姓 名		中学		大塚 大		科 目											
学力	英語		数学		国語		世界史B		倫・政		生物基礎		地学基礎		理科国語計		5教科合計		
	88	順位	88	順位	88	順位	88	順位	88	順位	88	順位	88	順位	88	順位	88	順位	
進研1期1月	68.1	18	46.7	227	60.6	85										55.6	108		
進研1期11月	45.4	216	59.5	101	61.8	67										55.7	138		
進研1期1月	57.8	84	54.6	188	58.4	96										57.6	109		
進研2期1月	49.8	168	56.2	115	62.9	88										56.9	105		
1期2月全金	48.1	195	46.8	170	50.6	188										50.1	187		
2期2月全金	89.1	288	47.8	157	49.8	158	51.2		47.8				42.2			48.7	140		
2期2月全金	44.2	180	52.5	109	47.4	154	50.1		59.5				52.4			45.8	169		
学力・学習・時間・教科担任者																			
学習 (単位:分)	英語		数学		国語		平日平均 学習時間		休日平均 学習時間		週間平均 学習時間								
	年間計	学期計	年間計	学期計	年間計	学期計	年間計	学期計	年間計	学期計	年間計	学期計							
1年1月	90	60	325	180	55	50	107		195		802								
2年4月	280	220	280	150	0	0	106		185		291								
2年6月	80	120	350	80	0	0	86		100		186								
2年8月	285	180	100	180	40	0	75		185		260								
2年11月	120	60	140	120	0	0	79		90		169								
教科担任者																			
担任		中野南士典		担任		中野南士典		公民		倫・政		理科Ⅰ		生物基礎		理科Ⅱ		地学基礎	
教科担任者について3年学習内容・方法(生徒事前記入)																			
使用している教材名				内容・方法・進度・知らせるまでの期間・使用時間															
教科担任者について3年学習内容・方法(生徒事前記入)																			
教科担任者に対する学習上の悩み・課題(生徒事前記入)																			
教科担任者からのアドバイス																			
分野		取り入れ3年学習方法・教材																	
教科担任者・学年・生徒に使用																			
												学年担任		教科担任		学年担任			
												有 限		有 限		有 限			

